

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム かつひろの家

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O371200239		
法人名	社会福祉法人 江刺寿生会		
事業所名	グループホーム かつひろの家		
所在地	〒023-1101 岩手県奥州市江刺区岩谷堂字下惣田290番地2		
自己評価作成日	平成 22年12月 23日	評価結果市町村受理日	平成 23年 5月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0371200239&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 23年 1月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①馴染みの季節の慣わし等利用者主体に行っている。
(お彼岸:おはぎ・ぼた餅、みずき団子、お月見、梅干し作り、葉焼き作り、干し柿作り、切干大根作り)
- ②春夏秋冬、毎日のように、散歩し季節を肌で感じていただく。
毎日、地元のスーパーに利用者とともに食材の買い出しに出かけている。時には、スーパーまで歩いて出掛ける。
- ③本人の想いを傾聴し、慣れ親しんだ地域とのかかわりを継続しながら、その人らしい生活が送れるよう支援している。(お墓参り・自宅訪問)職員は、朝・夕 利用者一人ひとりと挨拶を交わし、表情や状態観察に努めている。
- ④畑仕事をするにより昔の記憶を引出し収穫する喜びを分かち合い心豊かに過ごせるよう支援している。
- ⑤地域とのふれあい～民生委員・地域の一人暮らしの方と芋煮交流会を開催した。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ISO9001の認証取得にいたる取り組みから得たサービスを提供するための仕組みづくりの成果が大きく、管理職及び職員は良好なチームワークのもと「本人の何を知るか」というねらいに応じて効率よく収集された情報が共有されてケアに活かされている。また職員は、多くのことを利用者と共に行動中、やり甲斐や支え合い認め合うことの喜びを互いに感じられるよう支援しており、利用者の明るい笑顔が何にも代えられない宝物になっている。特養ホームや老健施設、社会福祉協議会やベビーホームがある「ヒロノ福祉パーク」の一事業所としてそれぞれと連携が図られているなか、緊急時には特養ホームの看護師の支援を得られる体制が整えられており、利用者・家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名：グループホーム かつひろの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	かつひろの家の理念～尊厳ある生活の構築～ ゆっくりと穏やかに のんびりと楽しく一緒に笑顔で暮らす家 朝食前に理念を唱和している。	一人ひとりの思いや意向を大切にできるケアを協調したシンプルな理念を掲げ、朝食前に利用者、職員共に唱和している。一日の平穩を願い、その願いを共有する大切な時として継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者と一緒に毎日のように地元のスーパーに買い物に出掛けている。(地域の方々との挨拶)ヒロノ福祉パーク祭りにて地域の方々とのふれあいがあつた。市道の美化活動(草取り・ゴミ拾い)	法人合同の敬老会、夏祭りなどでは、積極的に関わりを持つための具体的計画を立て、年々多くの住民参加を得ており、共に暮らす地域の一人として幅広い世代の交流を深めている。	法人主催の「夏祭り」「敬老会」などは、地域密着型のサービスの趣旨や役割を果たす場となっていることから継続されることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方々の見学を積極的に受け入れしている。高校生の職場体験の受け入れをしている。また、随時、実習生や利用者の地域の踊りのボランティア等の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービス利用状況の他、行事実施報告、自己評価の報告や外部評価の結果報告をし、委員の皆様から意見やアドバイスをいただいている。委員の方の提案で、地域の一人暮らしの方や民生委員と芋煮交流会を開催した。	推進委員会の要望で、ホームと地域の一人暮らしの老人の方々と芋の子会交流会を催したり、ホームの暮らしを地域に公開したりなど、委員とホームが一体となったユニークな行事の取り組みがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種書類申請は、利用者とともに市役所に出向いている。利用者の権利擁護について、利用者・職員と共に市役所担当者で連携し取り組んでいる。ご家族より生活保護について相談あり。担当の方に相談したケースがある。	市役所へ各種手続きやホームの広報を届ける際に利用者と一緒に出向き、実情を伝え理解を得ている。担当者とは書類作成や申請などで不明・疑問点の問い合わせなど、常に連絡し合い情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の玄関・居室の施錠について、改めてご家族に説明し同意を得ている。日中は、玄関・居室は施錠せず、センサーの設置により安全確認している。	毎年研修を実施し、身体拘束の弊害の理解を深めており、居室のベッドの高さを検討する等により拘束のないケアの実践に取り組んでいる。利用者の見守りに向けては、出入り確認のため玄関のセンサーを活用し、安心な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関係法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて高齢者虐待防止関係法の理解を図り、虐待防止の徹底に努めている。普段から、言葉遣いなどを気をつける配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、社会福祉協議会や市役所担当と連携し、遺産相続については、司法書士を訪問し、本人及びご家族と話し合いの場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者及びご家族に対し、サービスの内容、利用料等、契約書及び重要事項説明書を用いて説明し、署名・捺印していただいている。利用者の状態変化により、やむを得ず契約解除となる場合にも、十分な説明と話し合いを持ち、対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の想いを傾聴し、不満・苦情を受け止め改善に取り組んでいる。利用者アンケート実施。ご家族様アンケートを実施し、外出する際は連絡がほしいと要望あり。請求書を郵送する際、担当者より、行事予定を手書きで添えている。	利用者・家族との会話から意見等を把握するほか、毎年の家族アンケートに加えて、今年度から利用者アンケートを実施している。職員一人ひとり名札をつけることにしたり、事業所の予定の連絡希望に対応して、郵送する等意見を反映し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際、意見や提案を聴く機会を設けている。ISO9001 認証に向けて、MR（経営者との懇談会）にて、利用者の特浴の検討、パソコン購入、利用者の無断外出GPSレンタルの検討などの意見を提案し、迅速に対応した。	ISO9001の認証を得たことが大きい。本人を支えていくための要望・不安など把握するというねらいが明確で、記録やチェック表にも一貫性があり、簡潔な表記が職員間の共有を容易にしていることもあって、話し合いや提案が具体的に運営へ反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課について取り組んでいる。管理者も現場に来て、流しそうめんの行事に参加したり、利用者とお茶を飲む機会を設け、勤務状況の把握に努めている。クリスマス会では、所長のギターの弾き語りの余興があり、利用者も喜ばれた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修：AED救急法について勉強会を開催。法人外研修：グループホーム定例会に参加。ケアマネや介護福祉士の資格習得に向けた研修も行っている。ISO 改善研究にスタッフ全員で取り組み、法人内で発表会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修や定例会にて意見交換・情報交換行っている。他グループホームの実習の受け入れも積極的に行い、情報交換している。同業者のボランティアの受け入れもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話による相談があった場合は、ご本人とご家族に見学を勧めている。見学に来られた際は、お茶を飲みながら、現在困っていることや不安なことなどを伺い、状況把握や関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が遠方の場合は、電話を重ね、想いや訴えを十分に聴くよう心がけている。現在の待機状況など、かつひろの家に訪問する方もいる。訪問された際は、自宅での様子や現在困っていることなどをよく聴いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアハウスに8年入居した方で、ご本人やご家族が自宅近くの施設を希望され、グループホームに入所されたケースもあり。本人の状況を確認し、居宅のケアマネと連携しながら、他の事業所のサービスにつなげる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から学ぶ姿勢で取り組み、一緒に過ごすことを重視している。昔話を聴き、四季の行事を取り入れ、郷土料理の作り方などを教えていただいている。畑作り、野菜の植え方の時期なども教えていただきながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭り・開所記念行事・敬老会などのご案内をお送りしており、参加されている。面会時に、日々の様子や気づきなどを伝達し、個々のケース記録を閲覧している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅訪問・お墓参り等馴染みの人や場所との関係の継続に努めている。友人同士で自宅に行った際、昔、自分の住んでいた場所に何十年振りかで行くことが出来、とても喜ばれた。グループホームに入所し何十年振りか友人に再会した方も。	馴染みの方が季節の花や食材を持って訪ねて来たり、墓参りや生家巡りで親戚や近隣の方々との再会を契機に文通支援につながったりと、馴染みの関わりが徐々に広がっており、今後も継続支援に努めたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々が家事に参加し、お互いが協力し合えるよう見守りしている。椅子をひいてあげたり、手をつないで歩いたり、お茶をついであげたり、利用者の部屋で利用者同士語りあい、くつろいでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方(入院中)のご家族より、退院後について相談をうけ、介護保険要介護認定変更申請書(区分変更)などのアドバイスをさせていただき、関係を断ち切らないようにした。居宅ケアマネとの連携も図った。退所後も電話で状態把握。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを活用し、本人の思い、要望、意向の把握に努めている。意志疎通困難な方でも、表情や行動から汲み取る努力をし、ご家族からの情報も得るように心がけている。	(私のできることで、できないこと)シートを利用者と家族に記入してもらい、それを活用してその人らしい暮らしの支援につなげている。また日々の行動や表情からの意向把握にも努めている。	共通するツールを用いて、チームでセンター方式を使う効率的な情報収集は、ISOの趣旨である「質の高いサービス」提供で、利用者の満足度を得ることとリンクしていると考え。更なる推進が期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、ご本人やご家族から生活歴や馴染みの暮らし方などセンター方式シートを活用し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式シートを活用し、24時間アセスメントを行い、生活リズムの把握に努めている。本人のわかること、できそうなことを見極め、潜在能力の引き出しに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の際、アセスメントや主治医の意見(状況に応じて理学療法士の意見)をもとに現在の状況把握、モニタリングを行っている。ご本人やご家族の意向を取り入れた介護計画を作成している。	日々のミーティング記録や「私の暮らし方シート」をもとに、カンファレンス、モニタリングを行っており、本人・家族の意向や主治医等関係者の意見を合わせ必要に応じて計画変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきやケアの実践などを個別のケースに記録。利用者が転倒や不穩による無断外出などの場合は、随時、サービス担当者会議を行っている。是正処置報告書により、介護事故の再発防止に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「自宅に行きたい」と希望があった場合は、自宅にドライブやお墓参りに出かけたり柔軟に対応し、本人の気持ちの安定を図るよう支援している。本人の重度化に伴い、特別養護老人ホームの申込みのアドバイスをしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接施設との交流(聖愛ベビーホームの夕涼み会・バザーに出向く)社協の方やボランティアの方と夏祭りの夢灯り(キャンドル)作り、握手の日のボランティアもある。無断外出した利用者の情報(写真も)を警察署やタクシーなどに提供する。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同伴の通院の他、都合により職員が通院介助する場合もあるが、主治医への状態報告、家族への通院結果報告を十分に行っている。状態変化により、ご家族・スタッフとともに精神科通院し、情報提供も行う。	通院は家族同伴を原則としているが、事情等によっては職員が同伴し受診を支援している。なお、受診に際しては主治医へ「服薬、症状情報」提供し、結果については家族、ホームで共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	転倒など緊急時は、併設の看護師に処置していただき、速やかにかかりつけ医に通院し、病院の医師と相談し指示を仰いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、医師や担当看護婦に本人の状態を伝え、サマリーで申し送り、情報交換し、早期退院できるよう支援した。入院した際は、こまめに様子伺いに行き、状態把握に努めた。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応については、まだしていないが、ご家族アンケートの中に項目を増やし、ご家族の意向を伺った。終末期に関しては、デリケートな問題の為、ご本人及びご家族の意向を伺い、慎重に検討していきたいと考えている。	契約時に、終末期における対応等について現体制では困難であることを本人・家族へ伝え理解を承得ているが、今後かかりつけの病院、法人内事業所と連携し、本人家族の望まれる方向性を慎重に検討しながら、段階的に話し合いを進めていきたいとしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて、AED救急法や応急手当・緊急時の対応(誤嚥など)勉強会をスタッフ全員で行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施(年2回)隣接のさくらの郷にも応援要請している。利用者とともに消火訓練を行う。消防署と連携し、119通報訓練も行っている。非常備品も用意している。12月スプリンクラー工事終了後、火災通報装置を利用し、避難訓練を行う。	緊急時には隣接の特養ホームの協力を得られる体制を整えており、特養ホーム職員や推進委員の方々の参加を得て避難訓練を実施している。消火器、AEDなどの操作研修や、タオルを各居室の入り口に用意し火災発生時はそのタオルで口を覆って避難するなど具体的に実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮しながら、さりげなく声がけしている。気にかかる言葉かけがあった場合には、職員同士で確認・指導している。全職員が、個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底に努めている。	利用者の間違いや失敗を大声で話さないことや、失禁時の対応等本人及び周囲への配慮を欠かさないよう努めている。また言葉かけは「親しき仲にも礼儀あり」で、利用者は目上の人という意識を持って行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会のメニューの選択。誕生者が自らケーキ屋さんに出掛け、ケーキを選んで買ってくる。一人ひとりの意思を尊重し、自己決定や希望を引き出す場面を増やしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、食事作り、散歩など一人ひとりの状態や本人の想いに配慮し、本人のペースを大切にしながら、役割や生きがいを見出せるよう支援している。天気の良い日は、本人の体調を考慮しながら、地元のスーパーまで歩いて出掛けた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「男性がいるから恥ずかしいので美容室に行きたい」と希望される利用者に対し、職員が送迎し美容室に出掛けている。美容師のご家族が訪問し、散髪している利用者もいる。本人の希望で、化粧品を買いに出掛けることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の能力に応じて役割分担しながら、一緒に行っている。旬の食材や自分達の畑で収穫した野菜を取り入れた献立を作り、また利用者自ら漬物を作ることもあり、楽しみながら食事できるよう支援している。	広い空間に大きなテーブルでゆったりと食事できる雰囲気にある。利用者は下ごしらえや配膳、洗い物等職員と一緒にいる。季節感のある食材で、利用者が作った漬物も並び、笑顔でゆっくりと食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態により、お粥食や刻み食などの対応をしている。水分摂取については、コーヒー、お茶など個々の摂取しやすいよう配慮(ご家族より甘い物が好きなど嗜好を把握)併設施設の管理栄養士に献立の確認をしていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけ及び介助し、食物残渣物除去など口腔ケアを行っている。夕食後には、義歯洗浄し、口腔内の清潔に努めている。歯科通院することで、不穩になる利用者がいた。口を開けない時もあったが、現在は落ちついてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに排泄パターンを把握。外に行きたい→便意の表れの可能性もあるため、本人のサインを見逃さないよう観察している。	個々のパターンについて排泄表をもとに把握し早めにトイレ誘導することにより、失禁による身体的不快感等の軽減等のほか、トイレで排泄することが利用者の自信にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に乳製品(ヨーグルト、牛乳)の摂取に努め、水分補給に努めている。献立の中に野菜を多く取り入れている。下剤の使用については、主治医と相談しながら、排便の様子をみている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の健康状態や気分によって変更している。菖蒲湯やゆず湯など季節感を味わっていただけるよう支援している。行動障害(トイレにお湯が沸いていると思ひ込み服を脱ぐ)の利用者に対し、スタッフの勤務時間を変更し、夜間入浴を実施した。	入浴のリラクゼーション効果を高めるよう昔の話や歌を口ずさみながらゆったりと楽しめるよう支援している。なお風呂場には個別の入浴チェック表があり、入浴時間や温度のほか、体の状態等記入して、利用者の変化に気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤の希望があった場合は、ホットココアなど温かい飲み物を提供し、本人の話を傾聴し安心して休んでいただくよう支援している。生活リズムを整えるよう日中の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容、副作用等ファイルにまとめて保管。服薬の際は本人のものか確認し直接手渡ししている。錠剤が飲みづらい方は、主治医と相談し粉薬や水薬(ラキソパロン)に変更になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や得意なことが発揮できるよう役割を見つけ、感謝の言葉をかけている。(食事作り、裁縫、草取り等)毎日、日記を書いている方もいる。掃除は、居室入口に箒と塵取りを置き、声かけて毎日行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お墓参りの希望があった方と仏花を買いに行ってお墓参りにいったり、散歩に出掛ける他、日常的に買い物のため外出している。ご法事に参列した利用者もいる。	近くの河原が散歩コースで、野花を摘んだり行き交う方々との挨拶や立ち話を楽しんでいる。また畑の草取り、種まき等日常的に外出の機会を設けている。毎日の食材の買出しには利用者と一緒に出かけ、日用品や自分で使う化粧品を買うなど支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	夏祭りなどの行事の際は、個々に財布にお金を準備し、好きなものを買って食べれるよう支援している。通院や利用料の支払いも職員付き添いのもと本人が行っている方もいる。お金を持っていることで安心感を抱いており見守りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	広報を郵送する際、ご本人に遠方のご家族に手紙を書いていたいただき同封している。電話をかけたいと希望があった場合は、職員からも現状報告させて頂いている。遠方のご家族より電話があった場合は、本人と話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、食事の音や匂いを感じていただき、また直射日光が当たらないよう天井にカーテンをつけ、簾をかけ工夫している。季節の慣わしも利用者から教えていただき、梅干し・切干大根作り・十五夜・みずき団子作りをしている。	ゆったりと過ごせる広いワンフロアは清潔感が保たれ、温度や湿度も適切に管理され快適な空間となっている。壁面には習字や季節を彩る共同作品、食事への楽しみを揺する献立板、トイレには「日の丸」の絵、居室の暖簾には鈴をつけるなど、一人ひとりの快適な暮らしを支える工夫や配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルで新聞を読む人、手紙を書く人、外を眺める人、畳で編み物する人等、一人ひとり思い思いの時間を過ごしている。ホール内の長いす(四箇所)では、利用者同士語らいの場面が多く見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人及びご家族の意向によって、居室に三畳の畳を敷いている。ご家族の写真や愛犬・愛猫の写真や本人の書物など馴染みの物や使い慣れたもの(テレビやラジオ)を置いている。ご主人の位牌を置き、毎日拝んでいる方もいる。	ベット、タンス、3畳分のタタミがもともと備え付けられており、利用者は本やテレビ、ソファ、カレンダー、化粧品等日常使っているものを持ち込み安心・快適な居室となっている。居室では日記を書いたり、編み物、アートフラワーを楽しむ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室等は、大きく表示している。各居室には、表札のように名前をつけ、姿勢の低い方には、見える位置にも表示している。段差は、ほとんどなくホール内手すりも付いている。トイレがわからない利用者のため、日の丸の表示。		